

住民が安心して住み続けられるための地域医療を！

# 地域医療を守る共同行動 みやぎ連絡会 News

2020.11.6.Fri No.10

発行／地域医療を守る共同行動みやぎ連絡会事務局  
〒983-0047 仙台市宮城野区銀杏町39-18 (民医労内)  
TEL 022-782-0633 / FAX 022-782-0634

県立がんセンター・東北労災病院・仙台赤十字病院 3病院統合問題  
“東北労災病院・仙台赤十字病院は、  
仙台市の地域医療にとって、無くてはならない医療機関”  
県医労連「統合反対！現地存続を！」仙台市へ要請



10/29 (木) 宮城県医労連では、3病院を現地存続を求めて「統合に関わる」要請書を4団体連名で仙台市に提出。当日は労組関係者5名が仙台市を訪問しました。要請では「医療機関は、設置主体も成り立ちもそれぞれ違い、安易に統合されるべきではない」と主張し、「地域の住民に取っても無くてはならない病院、仮に移転・統合になった場合、地域医療が崩壊し医療難民が増える恐れがある」と述べました。市担当課長からは「2病院は周産期医療や救急医療で重要な役割を担っている。移転した場合の影響は大きい。引き続き、県や医療機関から情報収集していく」と返答しました。

安心・安全の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための

## 「いのち署名」住宅へのポスティング& 東北労災病院職員向けアンケートを実施！



10/29 (木) 県医労連の呼びかけで、安心・安全の医療・介護の実現と国民のいのちと健康を守るための「いのち署名」と「統合反対」ビラを東北ろうさい病院近辺の住宅へ800枚ポスティングを行い、現在までに101筆の署名が戻ってきています。また、東北ろうさい病院では、労組の呼びかけで、3病院統合問題で職員に対するアンケート調査を行い現在96件集約され、職員の思いなどを行政に伝える取り組みを進めています。

写真左上／仙台市へ要請書を手渡す県医労連委員長  
写真左下／東北ろうさい病院内でのアンケート呼びかけ

## 県医労連、統合対象2病院の現地存続を仙台市に要請

河北新報 2020.10.30



宮城県立がんセンター（名取市）など3病院の連携・統合協議を巡り、県医療労働組合連合会など4団体は29日、仙台市内の東北労災病院（青葉区）、仙台赤十字病院（太白区）の現所在地での存続を県に求めるよう、市に要請書を提出した。

県医労連の中山修執行委員長ら5人が市役所を訪れ、郡和子市長宛ての要請書を担当者に手渡した。

要請書は「東北労災、仙台赤十字の2病院は地域医療になくてはならない」と指摘。(1) 統合・移転は行わない (2) 病院職員の雇用を守る (3) 構想内容を地域住民、

職員に速やかに開示する (4) 地域医療を拡充する一ことを県に訴えるよう求めた。

提出後、中山委員長は取材に「市民の生活、地元の医療体制に大きな影響を及ぼす問題。市の見解をしっかりと表明してほしい」と語った。

堀江和巴医療政策担当課長は「2病院は周産期医療や救急医療で重要な役割を担っている。移転した場合の影響は大きい。引き続き、県や医療機関から情報収集していく」と応じた。

### 〈県内13市長との行政懇談会〉

### 経営難の公立刈田総合病院存続

### 村井知事「公営」が妥当「積極的な支援」を約束〈宮城〉

仙台放送 2020.10.27



仙台市を除く宮城県内の市長13人と、村井知事による行政懇談会が行われました。この中で村井知事は経営難の公立刈田総合病院存続について現状の「公営」が妥当との考えを示しました。

これは、年に一度、県内の市長と知事が集まり、行政などの課題について意見交換を行うものです。このうち、経営難の公立刈田総合病院の存続に関し、民営化を公約に掲げて再選を果たした白石市の山田市長は、改めて県に対し理解と支援を求めました。

白石市 山田裕一市長「刈田病院を存続し、仙南地域の中核病院との連携を果たしながら、オール仙南での地域医療を掲げていますので、県からのこれまで以上の積極的なご理解・ご支援・ご協力をお願いします」

これに対し、村井知事は現状の「公営」が妥当との認識を示しながらも、積極的な支援を行うことを約束しました。

宮城県村井嘉浩知事「県はどのような形になっても支援するという姿勢に変わりはありません」